

(仮称) 国立市健康まちづくりプラン素案市民説明会実施報告書 (第2回)

担当課	健康福祉部健康まちづくり戦略室
日時	令和6年1月23日(火) 午後7時～午後8時10分
場所	国立市役所3階 第一会議室
出席者	葛原地域包括ケア・健康づくり推進担当部長、橋本健康まちづくり戦略室長、吹春主事、村井
参加者数	6名
実施内容	1. 挨拶(葛原地域包括ケア・健康づくり推進担当部長) 2. プラン作成の経緯(橋本健康まちづくり戦略室長) 3. プラン素案説明(村井) 4. 意見交換
主な意見・市の回答	
<p>〈この2年の進捗について〉</p> <ul style="list-style-type: none">・基本方針から見させてもらっているが、基本方針とプランで変わった部分はどこか。 (市の回答: プランではワークショップや意識調査でいただいた市民からの意見について記載させていただいた。意識調査の結果も記載している。計画として指標も設けている。)・良い取組だと思うが、全庁で取り組むというところに難しさはないか。この取組が上手くいくような組織体制が必要。全庁連携の進捗はどうか。 (市の回答: 基本方針の作成後、各部署との連携事業としておでかけマップの作成を行った。他関連計画に考え方を反映させてもらえるよう取組をすすめており、連携していく体制として進んでいる。) <p>〈ウェルビーイングについて〉</p> <ul style="list-style-type: none">・横文字が入ってくるとそれだけで読めない人がいる。新しい概念は浸透するまでに努力が必要だと思う。・ウェルビーイングに関して、注釈のつけ方に工夫が必要かもしれない。・例えば体の調子が悪くなっても他の部分が上手くいけば良い、という広義の健康は理解できる。ウェルビーイングは1つの姿だけではない、考え方を市民に伝えていく作業、自分に何ができるか考えている。 <p>〈世代ごとの取り組みについて〉</p> <ul style="list-style-type: none">・全体像としては良いが、各年代が取り組む指針みたいなものがあると良いと思う。例えば第3次健康日本21の年代別の取組のように何をすると良いのかが示されていると分かりやすい。・フレイルチェックでも、測った後に何をすることが大事で、どんな運動や社会参加が良いのか市民が考えている。いろいろなことに成果が見えるとモチベーションにもなるので、具体的に何を行うべきか見ると良い。	

<地域活動について>

- ・今、地域活動を行っているが、活動の中心を担う人材が高齢化していく不安がある。世代間で上手に受け渡していくことができないと衰退してしまう。健康まちづくりにもいろいろな世代の人の意見を入れて考えていくべきだと思う。
- ・健康に関する取組について、自分で気づくことが大切。自分も定年後に地域に出てみて、いろいろな活動をして、生きがいを持っている。自分で気付いてもらえると良い。

<若い世代の参加について>

- ・今の30～40代は忙しいと思う。なかなか地域活動はできないのではないか。高齢になっても活躍している人が増えている。今活動していることに引退は考えず、できるところまで頑張る、という気持ちでやって次世代に引き継いでいきたい。

<公共施設の整備について>

- ・財政面で厳しいことは理解している。新しい施設でなくても、古い施設を改修して使えば良い。しかし、そこへのアクセスが大切。地域差も大きい。南部の方は公共施設までコミュニティバスで行けないところもある。

<道路の整備について>

- ・移動のしやすさに道路の舗装は大事。施設の整備よりも道路を考えた方が良い。
- ・交通量の調整のために少なくともスクールゾーンは一方通行、30km制限など規制していくと良いと思う。

<健康まちづくりについて>

- ・親世代から国立市のまちづくりを見てきた。舗装されていないところが整備され、文教都市として進展してきた経過も見てきた。ここで健康まちづくりという考え方が出てきたことはすごいことだと思う。
- ・地域活動をしている人は、いろいろな情報を持っているが、出てこない人をどうするか、が課題。せっかく健康まちづくりプランを作ったのだから、見てもらわないといけない。国立はコンパクトなまちだが、これは良いと思う。大きいまちではできないこともある。
- ・浸透させていくために、どうするかという議論があったが、大きくやっても伝わらないと思う。小規模の単位で、自主グループの訪問など有効だと思う。幸福完成度を高めていくのは個人個人。何年かかけて方法論を作っていくのが良い。協力していく。